

TOHO Girls' Dual Language Program News

2016.1 No. 2

私達は、これからのグローバル時代には、「違いを超えて、繋がる力」を持ち、「異なった背景を持つ人に共感し、協働できる」人材が求められていると考えます。そのために、これから社会に巣立つ若者には「広く共有されている論理に則ったコミュニケーション能力」が必須です。桐朋女子では、Dual Language Program (DLP) において、世界で通用する「論理的思考力」を育成し、時代をリードする女性を育てます。

DLP の 3 つの柱

キーワードは
「ロジック」「発信力」

ことばの力
の育成

世界を
読み解く
力の育成

高度な
英語発信
の実践

特集：2016 年度から始まる「言語技術教育」

「言語技術教育」の概要

中学 3 年生・高校 1 年生の英語の授業で週 1 時間、欧米における Language Arts（言語技術）を学び、「情報伝達の技術」「論証・プレゼンテーションの技術」「討論・議論の技術」「情報の分析・解釈の技術」の訓練を日本語で行い、英語につなげます。討論によって進み、作文によって完結する、生徒主体の授業を通して、世界標準の言語力を育成します。なお、本校の言語技術教育は、本校卒業生の三森ゆりか氏が代表を務める「つくば言語技術教育研究所」と連携して運営いたします。

「言語技術教育」の 5 つの技能

- ①対話・・・相手の話の内容に的確に応答する。
 - ②物語・・・物語の構造を知り、自分で物語る力を養成する。
 - ③説明・・・情報を相手に分かりやすく伝える。
 - ④論証・・・根拠を示して意見を論理的に伝える。
 - ⑤分析・・・根拠に基づいて情報を的確に読み取る。
- ⇒これらの分野を繰り返し学び、技能を高めます。

授業研修を行っています！

言語技術の授業は、今話題のアクティブ・ラーニングと呼ばれる生徒主体の授業です。一方的な教員からの講義形式と違い生徒の発言により授業が深まる対話形式で授業が進みます。そして、毎回最後に作文を執筆し、授業のまとめを行います。現在、中学 3 年生の有志生徒の協力を得て、言語技術の授業研修を行っています。後日、その詳細をお伝えいたします。



▲言語技術の授業研修の様子